

■日時 平成23年8月23日(火) ■天候 曇り 天理高校 対 岡山県立烏城高校  
 ■球場 明治神宮野球場 第1試合 5回戦 決勝 ■試合時間 2時間08分 ■備考 中断2分間(怪我)  
 ■審判 球審:田中 塁審:宇田川 伊藤 清水

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
烏城	東中国・岡山	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3	0
天理	近畿・奈良	3	1	0	0	0	0	0	5	x	9	16	0

鳥城		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
1	捕	投	高原 恭平	4	0	1	0	三振			左安		遊飛			三振			
2	右		山崎 勇人	4	1	1	0	中飛			三ゴ		左2			三ゴ			
3	遊	捕	田野口 凌	4	0	0	0	三振			三振		三振			右飛			
4	投	一	大崎 光士郎	2	0	1	1		三ゴ		中3				死球				
5	一	遊	高原 孝太	3	0	0	0		二ゴ		遊ゴ				三振				
6	三		石川 友貴	3	0	0	0		三振			三ゴ		一直					
7	左		岡田 篤樹	3	0	0	0			二ゴ		三振			遊ゴ				
8	二		平野 裕己	3	0	0	0			三振		三振			一ゴ				
9	中		福池 翔	3	0	0	0			三振			三振		三振				
合計				29	1	3	1	残塁:2 併殺:0											
備考																			

■バッテリー

投手
大崎 光士郎
高原 恭平

捕手
高原 恭平
田野口 凌

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
大崎 光士郎	7 1/3	40	16	10	4	9
高原 恭平	2/3	4	0	1	2	0

天理		ポジション	氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	8	9	計	安	失
1	遊		西井 旬進	4	2	1	0	右安	三振		三振		三ゴ		死球					
2	捕		飯田 佳伸	5	0	2	0	三振	左飛		右安		中安		三振					
2	一		金丸 和真	0	0	0	0													
3	投		中村 陽平	5	3	4	3	右3	左3		三振		中安		左安					
4	三		福澤 亮介	4	2	2	2	中安	二安		三振		投ゴ		四球					
5	一	捕	中尾 匠	4	0	2	1	左安	三振			三振		左2	四球					
6	左		山路 雅登	4	0	3	0	捕ゴ		三安		左安		三安	四球					
7	二		楢谷 輝	3	0	0	1	死球		投ゴ		遊ゴ		三振	中犠					
8	中		仁上 亮	4	1	1	0	死球		三振		遊ゴ			左2	三振				
9	右		松下 賢太郎	4	1	1	0	遊ゴ		左飛			遊飛		遊安					
合計				37	9	16	7	残塁:11 併殺:0												
備考																				

■バッテリー

投手
中村 陽平

捕手
飯田 佳伸
中尾 匠

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
中村 陽平	9	30	3	13	1	1

■戦評

第58回大会の決勝戦は五連覇を掛けた天理と初優勝を目指す鳥城との対戦になった。両チームとも1回戦から全試合完投のエース同士が先発。前日の雨で準決勝から1日空いたとはいえ連投の疲れが残る中で気力を尽くしての投げ合いとなった。初回先攻の鳥城に対し天理先発中村は130°。台後半の快速球と切れのよいスライダーを交え三者凡退に打ち取る。その裏天理は鳥城先発大崎の立ち上がり捉え先頭の西井が右前打で出塁。盗塁後3番中村は大崎の5球目を上手く追付けて右中間を深々と破る適時三塁打を打ち1点先制。続く4番福澤の右中間適時打でもう1点追加。5番中尾の左前適時打でこの回3点を先取して早くも試合の主導権を握る。2回裏には3番中村が2打席連続の三塁打を打ち4番福澤の内野安打で生還し1点追加。鳥城は3回まで中村に一人の走者も出せず完全に押さえ込まれていたが4回表この回先頭1番高原恭がチーム初安打となる左前打で出塁。内野ゴロで補殺になるも残った山崎を4番大崎が右中間を深々と破る適時三塁打で迎え入れ1点を返す。その後両チームとも走者を出すものの中村、大崎両先発が要所を締め得点を与えない。7回裏天理は5番中尾の左翼越二塁打と6番山路の内野安打で無死一三塁。ここでエンドランを外され挟殺プレーで一死三塁となる。次の投球が大きく逸れたがバックネットに跳ね返り捕手からの送球を受けた大崎が本塁上クロスプレーでアウトにするも足を痛めてしまう。この回は何とか切り抜けたものの8回には球威、制球ともに本来の投球には程遠く3本の安打と二つの四死球などで3点を献上して無念の降板。その後も2番手高原恭から2点を奪いこの回5点を追加し試合を決める。鳥城最後の攻撃を三人で抑え9-1で天理が鳥城を下し大会史上初の5年連続8回目の優勝を飾った。天理は5試合すべてを一人で投げ抜いたエース中村の投打に渡る活躍が光った。敗れはしたものの最後まで諦めず逆転に次ぐ逆転で決勝まで勝ち上がった鳥城の健闘はすばらしい準優勝と称えられる。